

訪日外国人旅行者の旅行動機に関する研究 ーしまなみ海道訪日サイクリストに着目してー

スポーツビジネス研究領域

5017A038-0 高山 凜乃

研究指導教員：原田 宗彦 教授

背景

近年日本では新成長戦略(2010)の7本柱の1つとして観光産業に力を入れている。スポーツツーリズムは注目を浴びている1分野であり、国内外の旅行者の新たな旅行行動を喚起し、旅行消費の拡大が期待されている(スポーツツーリズム推進基本計画, 2011)。なかでも世界に誇る日本の自然資源を活用したアウトドアスポーツツーリズムはスポーツ庁の新規重点テーマとして取り上げられ、地域活性化の役割も期待されている(スポーツ庁, 2018)。また近年の訪日外国人旅行者の増加は目覚ましく、2018年は約3000万人が訪れ、その数は年々右肩上がりに伸びている。訪日外国人旅行者を巻き込んだスポーツツーリズムといった動きも見られ、スポーツツーリズムを通し日本の自然や地域といった観光資源を誇示し、新たな訪日のモチベーションを提供する装置としても期待されている。このようにスポーツツーリズム×インバウンド分野は非常に注目・期待されている分野であることが伺える。実際に一部の地域には既に多くの外国人が訪れスポーツを楽しんでいる。しかし意向や関心に関する調査は行われているものの、その実態を知る資料が少なく、アウトドアスポーツツーリズム×インバウンドを取り扱った研究が少ないことから実態を解明できていないのが現状である。そこで本研究では既に訪日外国人旅行者が多く訪れているしまなみ海道を舞台として、しまなみ海道訪日サイクリストの実態を明らかにすることとした。また旅行行動の源となる旅行動機を明らかにし、人口統計的および行動特性で差があるのかどうかについても検証することとした。

研究目的

本研究の目的は以下の3点である。①しまなみ海道をサイクリングに参加している訪日外国人旅行者のデモグラフィックおよび訪日旅行行動特性を明らかにすること。②しまなみ海道をサイクリングしている訪日外国人旅行者の訪日旅行動機を明らかにすること。③旅行動機に関し、デモグラフィックおよび訪日旅行行動特性によって、差が生まれるかを明らかにすること。

先行研究

今までスポーツツーリズムに関する動機研究はスポーツイベントの参加者・観戦者を対象として行われてきたものが多い。そのためスポーツツーリズムの定義は「スポーツイベントへの参加を主目的とした人々」(Nogawa et al.1996)など主目的に着目した定義がなされている。しかしスポーツを副次的に行うツーリズムスポーツという分類もされるようになり(二宮, 2009)、副次的目的を含んだスポーツツーリズムの研究は数が少ない。そこで本研究では「旅行の主目的・副目的に関わらず日常生活圏外でスポーツに関わることをスポーツツーリズムとして、そこに参加している人々を「スポーツツーリスト」として定義する。

旅行動機においては、旅行動機を中心は“Escape” “Relax” “Novelty” “Relationship” “Self-development”であり様々なタイプの旅行者に共通する因子であることが明らかにされている(Pearce and Lee,2005)。また海外旅行者の動機は“Culture” (Kozak,2002)、“Prestige”(Hanquin and Lam,1999)といった因子も確認されている。しかしスポーツツーリズムに関する研究はスポーツもしくはツーリズムの一方の観点から焦点が当てられてきたが、スポーツとツーリズム双方からスポーツツーリストを捉える必要性が指摘されている(Funk et al,2009; Kim and Chalip,2004; 西尾ほか,2013)ことから旅行動機のみでは十分でないと考えられる。また旅行動機の中にはスポーツに参加するといった項目からなる“Physical”(Kozak,2002)、“Sports”(Uysal,1995)といった因子も確認されているため、旅行動機にスポーツ参加動機が含まれると考えられる。そこで本研究では旅行動機にスポーツ参加動機を一部含め、検証することとした。

スポーツツーリズムにおけるインバウンドに特化した研究は国内外でも研究の数が少なく、Funk et al.(2007)がオーストラリアで開かれた国際マラソン大会参加者の旅行動機を明らかにしたもの、高田(2016)が大相撲観戦者のスポーツ旅行動機を明らかにしたものなどがある。しかし日本における副次的目的を含んだ参加型スポーツの旅行動機に着目した研究は散見されていないため、本研究を行う意義は十分にあると考えられる。

最後に関与度については、今まで様々な観点から研究が行われている。特にスポーツツーリストや参加者の特性把握やセグメント化に使用されており(Alexandris et al., 2009; Brent et al., 2010)、本研究でも用いることとした。

調査概要

8月30日から9月25日の期間で広島県尾道市にある「尾道港レンタサイクルターミナル」にて自転車进行を借りにくる外国人旅行者に、手渡しで質問紙調査を行った。基本的にはサイクリング出発前に配布し回答してもらったが、一部サイクリング後に配布し回収したものも含まれている。有効回答は312部、うち観光動機については欠損のないものを使用するため273部となった。

質問紙構成は訪日旅行動機尺度、関与度尺度、行動特性、人口統計的特性の4つから成る。旅行動機尺度にはFunk et al. (2007)を元に数項目(Pearce and Lee,2005;Alexandris,2009; Hanqin,1999)を追加し11因子35項目で測定した。また関与度尺度はFunk et al. (2007)を使用し、5項目で普段のサイクリング行動についての関与度を測定した。

しまなみ海道サイクリングロードは広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ全長約70kmの海峡を横断できるサイクリングロードであり、サイクリストの聖地としても有名である。しまなみ海道サイクリングロード広島県側を管轄するしまなみジャパンの職員の方のお話によると、2017年広島県側レンタサイクルの外国人利用者数は約8000人、2018年には1万人に到達する勢いであったが、7月の豪雨災害の影響もありそこまではいかない見通しである。

調査結果・考察

はじめにデモグラフィックについての結果である。性別においては男性56% 女性44%、年代では20代30代で約8割を占め、若い年齢層が主であるという結果になった。国籍は33の国と地域から訪れていることがわかり、全体的には欧州諸国が多く、ドイツ・イスラエル・アメリカがトップ3となった。調査期間中のある日からイスラエル人が増えたため話を伺うと、この時期がユダヤ教の新年にあたり、3週間ほど休みが続くとのことでこの時期特有の結果とも言える。訪日回数については初来日が6割、リピーターが4割という結果になった。観光庁(2017)によると、訪日回数が増えると地方を訪れる割合が高くなると言われているが、しまなみ地域には初来日でも訪れている人が多くいるということが明らかになった。また同行人数は2人が7割となり、友人やパートナー(夫婦、恋人)が多い結果となった。日本旅行に関する情報収集源はインターネットが最も多く、ついで口コミ・ガイドブックという順になった。しまなみでサイクリングをすることは訪日前から決めていたという人が8割で、しまなみエリアに滞在した

という人は65%という結果となった。普段のサイクリング行動について、日常的に自転車に乗っている(通学・通勤、買い物など)と回答した人は4割、また海外旅行先でサイクリングをいつも行うと回答した人は12%、時々行くと答えた人は71%という結果になった。訪日しまなみサイクリストにとって、旅先でサイクリングをすることは、物珍しいことではないことが伺える。

デモグラフィックス比較を行なったところ、地域間で旅行形態に大きな差異があること分かり、アジア地域は一極短期集中型、欧米豪地域では長期周遊型の旅行形態をとっていることが明らかとなった。

次に訪日旅行動機についての結果である。探索的因子分析(主因子法プロマックス回転)を行ったところ、6因子27項目(56.8%)という結果になった。第1因子から順に、“Culture” “Novelty” “Prestige” “Self-development” “Social” “Relax”と命名した。

訪日旅行動機を性別・関与度・地域・訪日回数の4項目で、動機に差があるのかを検討したところ、以下表1に示す結果となった。

表1 人口統計および訪日旅行特性による訪日旅行動機比較							
	n	Culture	Novelty	Prestige	SD	Relax	Social
女	117	5.39	6.36	4.35	4.78	5.34	5.58
男	156	5.32	6.13	4.62	4.57	4.99	5.20
		n. s	**	n. s	n. s	**	**
関与度低	160	5.18	6.13	4.34	4.50	5.02	5.25
関与度高	102	5.60	6.40	4.69	4.88	5.33	5.55
		***	***	**	**	**	*
アジア	40	5.08	6.18	5.39	5.35	5.61	5.20
欧米豪	230	5.39	6.24	4.33	4.53	5.05	5.38
		**	n. s	***	***	***	n. s
初めて	162	5.37	6.21	4.30	4.41	5.01	5.26
リピーター	105	5.30	6.25	4.77	5.00	5.32	5.50
		n. s	n. s	***	***	**	n. s

*<.1 **<.05 ***<.01

最後に、今回の訪日旅行の主目的がサイクリングであるか否かの目的と自国でのサイクリングへの関与度による4象限で訪日旅行動機比較を行なったところ、以下図1に示す結果となった。

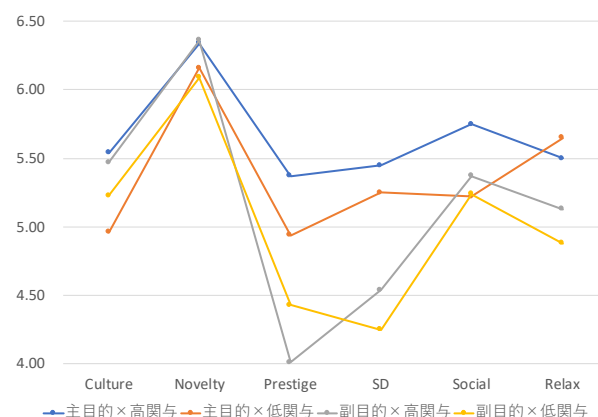


図1 目的と関与度による4象限の訪日旅行動機比較